（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 ３ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立草加東高等学校）　ｅ22

目指す学校像	希望をもって自己実現に努め、社会に貢献できる生徒を育成する。

重　点　目　標	1　主体的学習態度を育成し、学力の向上と希望進路の実現を図る。 2　基本的生活習慣を確立し、部活動や学校行事等を通じて自律心と豊かな人間性を養う。 3　開かれた学校づくりを進め、保護者・地域との連携を深める。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	６名
	生徒	３名
	事務局(教職員)	３名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年 度 評 価 （ ２月１日 現在 ）			実 施 日　令和　４年　２月２５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況　※（ ）＝昨年度の数値	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ・進路希望実現の基盤となる学力向上のために、朝学習、補習、検定試験奨励などに取り組み、一定の成果を上げている。 ・時季に応じた系統的な進路指導により、適切な進路意識を抱かせている。 ・分かり易い授業が各教科で実践されている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・自学自習の習慣を拡充させて、学力向上を図り、第一希望合格に導く。 ・進路に関して高い志を抱かせ、持続させ、実現に導いていくための取組を充実する。 ・授業改善に努め、アクティブラーニングやＩＣＴ機器を活用した授業実践を推進する。	・生徒の主体的学習態度の育成により学力の向上を図り、適切な進路指導により希望進路を実現する。	①-1 朝学習を計画的に実施し、朝学習ノートを定期的に点検する。 ①-2 効果的な課題設定等により家庭学習習慣を向上させ、成績の向上につなげる。 ①-3 英検等各種検定試験の受検を奨励する。 ②-1　スタディサポート等のデータに基づく個別指導を行う。 ②-2 進路希望別補習を実施する。 ②-3 個に応じた進路相談・指導等により、進路希望の実現を図る。	①-1 授業以外の学習時間の確保 ①-2 各学期の成績状況の推移 ①-3 各検定試験の受検・合格状況 ②-1 個人面談の実施状況 ②-2 補習の開設数と参加者数 ②-3 三学年の進路結果	・コロナ禍において、主体的な学習態度を育成し、必要な進路指導を行うことで、志を持つ生徒の希望実現につなげた。 ①-1　年間出校日数163日に対して143日の朝学習を実施。実施率87.7%(78.6)。家庭学習時間は平日1時間から4時間が27.4%(25.3)、休日2時間以上23.2%(20.6)。 ①-2　各学期の成績優良者数は1学期107人(108)、2学期98人(112)。 ①-3　各種検定試験のべ合格者数は英検19名(33)、漢検19名(25)、情処検・PC検39名(47)。 ②-1　各担任が二者面談、三者面談を実施。 ②-2　進学講座は3学年20講座(15)102人（146)、2学年8講座(10)64人(136)、1学年11講座(7)36人（66)、補習も各学年組織的に実施。 ②-3　3学年の進路状況は4大123(123)、短大15(16)、専門116(126)、就職23(23)、未定33(29)。	A	☆主体的学習態度育成の継続した取組 →朝学習の充実 →検定試験の奨励 →各教科での課題付与等 ☆進路意識早期育成、能力伸長、進路実現 →個別面談による生徒理解 →学習に関するデータの有効活用 →充実した進学補習、面接指導等の実施 →模擬試験の有効活用	・コロナ禍において、生徒の学習意欲を保持することは大変な苦労があると思いますが、朝学習の実施や二者面談、三者面談の実施など生徒に寄り添った対応ができていると感じています。 ・生徒も向上心があり、上級学校への進学希望者が多いことがわかります。コロナ禍で大変な時期が続きますが、今後も生徒に寄り添い目指す学校像に近づけるようになることを期待します。 ・学習指導にも進路指導にも、とても熱心に取り組んでいることがよく分かりました。生徒や保護者のアンケート結果からも、先生方の学力向上・進路選択に対する熱意が伝わっていることが強く感じられました。 ・生徒のアンケート結果から、授業で不明点・理解不十分箇所があった際に先生のところへ質問に行くハードルがまだ若干高いことが窺えます。質問しやすい空気づくりの工夫をさらに進めていただければよいと思います。 ・ICT活用の方向性は逆戻りすることはないでしょうから、上手く活用していくことが大事であると考えます。
		・全教員が計画的に授業改善に取り組み、授業力を高めるとともに、オンライン学習の実現に向けて取り組む。	③-1 生徒による授業評価アンケートを実施し、結果を各教科で考察する。 ③-2 授業研究月間を２回設定し、相互授業参観や研究授業を実施するとともに、「未来学び」事業参画に伴う公開授業を実施する。 ③-3 オンライン学習の実現に向け準備する。	③-1 授業評価・学校評価アンケート結果(理解度・興味関心) ③-2 授業研究月間の研究授業実施状況及び「未来学び」事業に伴う公開授業実施状況 ③-3 「オンライン学習を実施するためのチェックリスト」実施状況	・わかりやすい授業は実施できた。今後の授業改善の一つとしてＩＣＴ活用のさらなる充実が望まれる。 ③-1　授業がだいたい理解できていると肯定的に回答した生徒は全体の81.6%(72.1)であった。 ③-2　６月と１１月に教職員相互授業研究月間を設けた。この間に校内研究授業を地歴公民で２回、英語で２回実施した。 ③-3　５月中間考査の午後に学校と家庭をつなぐ「ネットワーク環境整備等に関する調査」を実施。分散登校や学級閉鎖時には学校と家庭をつないでのやりとりを実施。ICTを活用した授業の工夫や健康観察はほぼできている一方、コロナ禍におけるオンラインを活用した双方向型授業の実施については十分とは言えない状況である。	B	☆授業改善に向けた継続的取組 →観点別評価を踏まえた授業改善 →校外研修会等への積極的参加 →知識の定着に注力した学習指導 ☆「県の学校教育情報化」に基づく取組 →生徒の情報活用能力の育成 →教員のＩＣＴ活用指導力の向上 →学校のＩＣＴ環境整備	
2	【現状】 ・全教職員の共通理解の下、一丸となった生徒指導が行われ、学校の秩序が確立されている。 ・真面目で礼儀正しく素直な生徒が多数を占め、中学校や地域からの評価も高い。 ・部活動の加入率が90%を超え、生徒の学校生活の充実をもたらしている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・交通マナーや情報モラル等を身につけさせる指導を充実する。 ・心の悩みを抱える生徒に対する教育相談機能の充実や人間関係形成能力の育成を図る。 ・生徒会活動、部活動、学校行事に主体的に取り組ませる工夫を検討する。	・生徒の自律心を高めるとともに、メンタルヘルスリテラシーの向上を図り、安全・安心で秩序ある教育環境を維持する。	①-1 全職員による登校時立哨指導や校外巡回指導を行う。 ①-2 警察等外部講師による講演等を実施し、生徒や保護者を啓発する。 ②-1 生徒の実態把握に関する調査を年2回以上実施し、遅滞なく生徒の課題に対する指導・支援を行う。 ②-2 メンタルヘルス研究推進校としての取組を実施する。	①-1 交通事故発生件数及び遅刻状況と皆勤者数 ①-2 特別指導の発生件数と指導対象人数の推移 ②-1 いじめ実態調査結果、学校評価アンケート結果(学校生活への意識) ②-2 実施計画書に基づく実施状況	・メンタルヘルスリテラシー向上の取組を推進した。安全・安心で秩序ある教育環境を維持できた。 ①-1　交通事故は発生件数16(21)。2学期の1日当たりの平均遅刻者数は8.8人(6.1)。1、2学期の各皆勤者数は1年259、158(273、169)、2年196、136(257、167)、3年196、117(269、153)であった。 ①-2　特別指導の件数は4件4名(4件7名)であった。 ②-1　いじめ実態調査結果は０件であった。生徒同士の人間関係が良好と回答した生徒は91.9%(92.9)、本校に入学して良かったと思う生徒は83.3%(78.4)であった。 ②-2　メンタルヘルスリテラシー向上に関する授業を１年生各クラスで計８回、動画を活用した職員研修を１回実施した。	A	☆規律ある安全安心な学校生活の維持 →全教職員による規律ある態度育成 →外部人材も活用した交通安全教育、非行防止教室等の実施 ☆メンタルヘルス研究推進校としての継続した取組 →教育相談体制のさらなる充実 →県教委や外部機関との連携 →授業、研修、保護者啓発等の実施	・研究推進校としてのメンタルヘルスリテラシー教育の実践、特筆すべき教育活動の１つと思います。この３年間のみならず、５年後、10年後もメンタルヘルス教育の先進校であり続けることを期待されての研究指定と思いますので、この先も長きにわたって草加東の特長の１つとなるようなメンタルヘルス教育の構築を期待します。 ・コロナ禍で制約のある中、部活動や学校行事などの取組、御苦労様です。 ・部活動も活発そうで今後楽しみです。 ・学校行事も、部活動の大会も、中止になれば生徒さんは「一生に一度しかないチャンス」を失ってしまうことになります。コロナ禍は未だ収束の兆しが見えませんが、もしかしたらそろそろ「コロナ禍でも開催できる行事」のあり方を模索しなければいけない時期が訪れているのかもしれません。
		・部活動、生徒会活動、学校行事を活性化させ、豊かな人間性を養う。	③-1 部活動活性化により、自己肯定感を高め達成感を与える。 ③-2生徒会活動や委員会活動活性化により生徒の自主性を育む。 ③-3 参加者の満足度が高い学校行事を実現する。	③-1 部活動参加率と活動実績 ③-2 生徒会や各委員会の活動状況 ③-3 各学校行事の実施状況及び学校評価アンケート結果(特別活動)	・多くの生徒が充実した部活動に取り組んでいる。修学旅行は実施できたが文化祭は中止となった。 ③-1　部活動加入率は95.1%(94.1)。陸上競技部、軽音楽部が全国大会、水泳部が関東大会へ出場した。 ③-1　生徒会をはじめ各委員会において生徒による活発な活動が見られた。 ③-3　やむなく文化祭は中止とした。学校評価アンケートで部活動が盛んであると答えた生徒が80.7%(80.1)、学校行事が盛んであると答えた生徒が66.7%(73.5)。	B	☆コロナ後の部活動、学校行事の充実 →部活動加入率の維持と活性化 →前年度未実施行事の取組 →各委員会の活動充実	
3	【現状】 ・保護者への連絡の機会は複数設定されており、迅速で的確な情報提供の基盤はできている。 ・ホームページには一定のアクセスがある。 ・中高連携は活発に行われており、その成果は比較的高い入試倍率に表れている。ボランティア活動や地域との交流が活発であり、関係者から高い評価を得ている。 【課題】 以下の課題に取り組む必要がある。 ・保護者との連携体制の整備を進める。 ・最新の情報を速やかに提供するとともに、本校の魅力を効果的に発信するなど、ホームページの利便性を高める。 ・中高連携や地域との交流、生徒募集活動の充実を図る。	・多角的で迅速な情報発信と丁寧な対応により、保護者からの信頼を高める。	①-1 メール配信システム加入者及び情報発信・問合せ対応回数を増やす。 ①-2 学年保護者会を時季に応じて開催する。 ②-1 各担当によるＨＰの更新回数を増やすとともに、新たな情報発信ツールの構築を検討する。	①-1 メール配信システムの運用状況 ①-2 学年保護者会の開催状況（参加者数）及び学校評価アンケート結果（情報発信） ②-1 ＨＰへのアクセス数	・ＨＰにパノラマビューを導入する等、情報発信に努めた。本校に入学して良かったと思う保護者の割合は83.3%(89.8)と一定の満足度を得ているが、コロナ禍で未実施の取組等もあり、継続が必要である。 ①-1　メール配信システムの登録者数は1,482人（1,923)で、15件（26)の情報を発信した。 ①-2　保護者会は１学年未実施、２学年78名、３学年140名参加。学校の情報が良く公開されていると答えた保護者の割合は66.6%(70.2)。 ②-3　開設以来のHPへのアクセス数は1,477,845で、今年度のアクセス数は229,088(479,656)であった。	B	☆家庭や地域への情報発信の充実 →各分野でのＨＰ更新頻度の向上 →必要に応じたメールでの情報提供 →全学年での保護者会実施	・HPのパノラマビュー導入は時代にマッチしています。情報発信は今後も重要であると思います。アクセス数の減少は残念ですが今後は内容を吟味して魅力あるホームページをお願いします。 ・SNS全盛時代ということもあり、情報閲覧・入手媒体としてHPの重要性が以前より低下しているのかもしれません。かと言って、代替できるSNSをすぐに挙げられるわけでもないのですが、世間の趨勢としてHPでの情報発信が以前より有用でなくなってきている可能性も考えてみてもよいのかと思います。 ・近隣施設として、コロナ禍で交流ができず残念でした。次年度は、互いに開催方法等を工夫して、実施できることを期待しています。コロナと折り合いをつけながらできる限り復活の道を探りましょう。
		・中高連携や地域との交流により、本校への理解を深める。	③-1 広報・生徒募集担当の業務内容をさらに改善して、中高連携や情報発信機能を拡充する。 ③-2 中学校からの依頼や中学生・保護者からの問合せへの対応を充実させる。 ③-3 各部活動や学年主体の近隣の社会福祉施設や公共施設との連携・交流を維持し質的充実を図る。	③-1 中高連携関連行事の実施状況及び学校説明会等への参加者数 ③-2 中学三年生の進学希望状況調査結果 ③-3 社会福祉施設や公民館との交流の回数と参加者数	・中学生等に対する情報発信に努めた結果、入試倍率は維持できている。コロナ禍において地域との交流は深められなかった。 ③-1　広報生徒募集委員会が中心となり、学校公開・学校説明会を全校的な協力体制で実施した。学校説明会参加者数は第1回245人(321)、第2回248人(277）であった。 ③-2　進学希望状況調査での倍率は10月1.35倍(1.48)、12月1.25倍(1.20)であった。 ③-3　新型コロナウイルス感染防止のため、近隣の施設との交流はほとんど実施できなかった。	B	☆中高連携の一層の充実 →時期を捉えた広報活動の実施 →全教職員による情報発信 →近隣中学校との連携強化 ☆コロナ後の地域交流充実 →交流活動支援の再開、継続	